

4-4 道路整備の方針

(1) 将来道路ネットワークの方針

- 「あやせ都市マスタープラン」では、将来の幹線道路ネットワークを主要幹線道路、幹線道路、地区幹線道路により構成しています。本計画でも「あやせ都市マスタープラン」の位置づけを踏まえて、20年後の将来交通像を実現するために、将来道路ネットワークを位置づけます。

【あやせ都市マスタープランにおける幹線道路の位置づけ】

- ・ 主要幹線道路は、4車線の道路として整備を検討する。
- ・ 幹線道路は、主要幹線道路に連絡し、歩道を備えたゆとりある2車線の道路とする。
- ・ 地区幹線道路は、幹線道路と地区集散道路を連絡し、都市の骨格づくりに資する2車線の道路として整備する。

【あやせ都市マスタープランにおける地区集散道路の位置づけ】

- ・ 地区集散道路は、通過交通の生じない道路交通体系を目指し、安全で快適な街区づくりに資する2車線の道路として整備する。

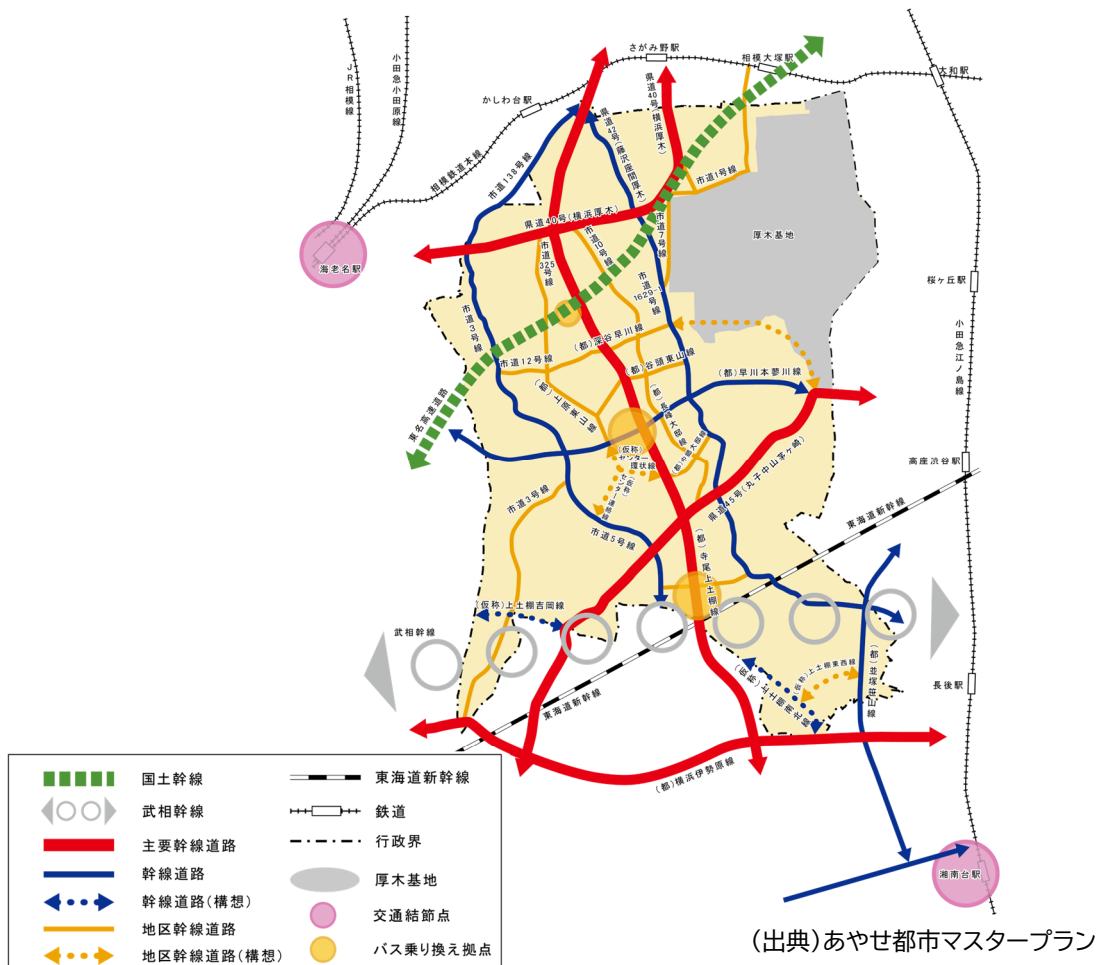


図 将来道路網図

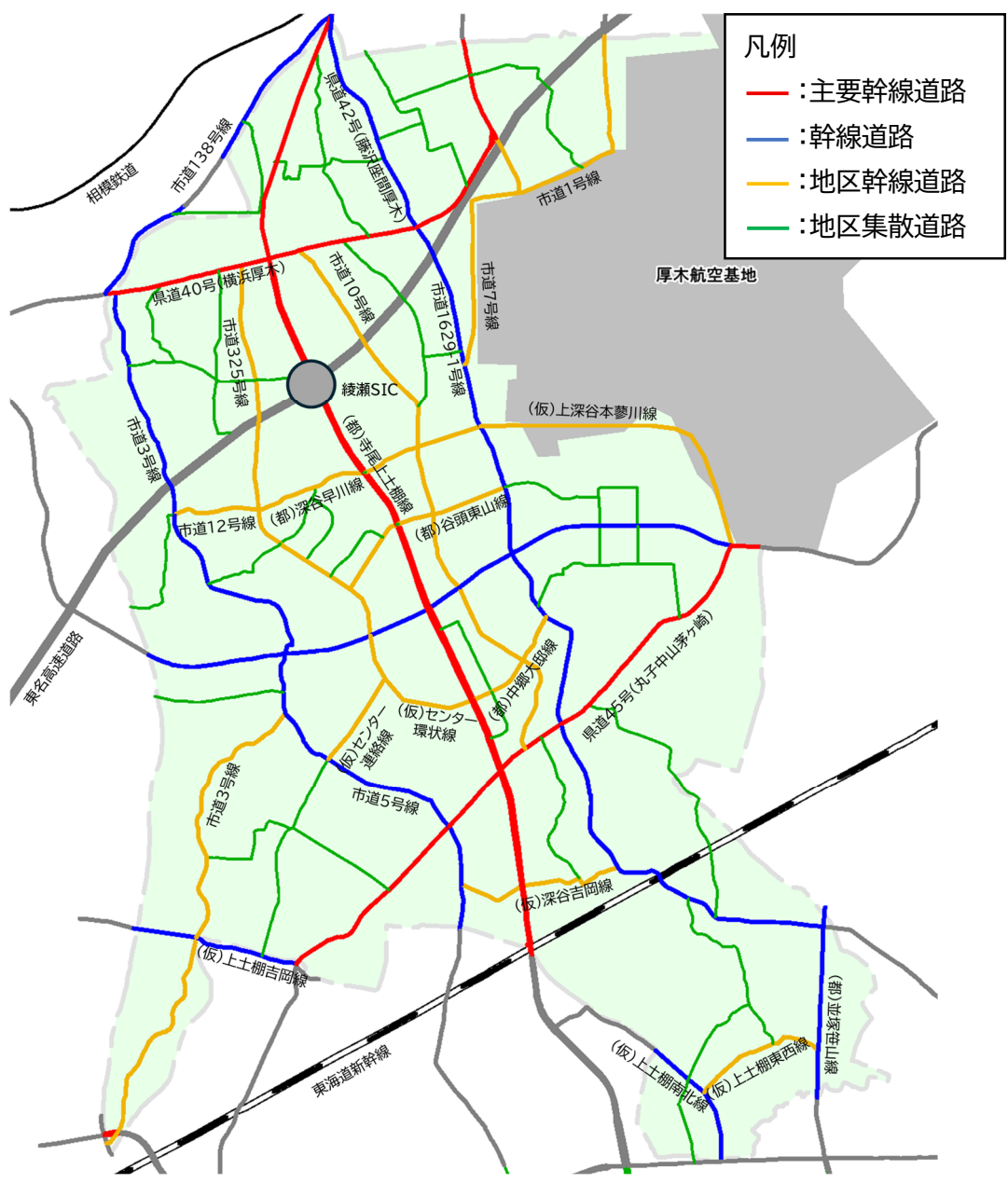


図 幹線道路・地区集散道路

表 幹線道路・地区集散道路の分類

主要幹線道路	都市の拠点間を連絡し、自動車専用道路と連携し都市に出入りする交通や都市内の重要な地域間相互の交通の用に供する道路で、特に高い走行機能と交通処理機能を有する。
幹線道路	都市内の各地区または主要な施設相互間の交通を集約して処理する道路で、居住環境地区等の都市の骨格を形成する。
地区幹線道路	主要幹線道路または幹線道路で囲まれた区域内において幹線道路を補完し、区域内に発生集中する交通と幹線道路を連絡する補助的な幹線道路である。
地区集散道路	地区幹線道路に連絡し、街区内の交通を集散させるとともに、街区や宅地の外郭を形成する日常生活に密着した道路である。

(2) 道路整備の方針

- 現状の道路整備に関する課題としては、幹線道路の混雑による速達性・快適性の低下、生活に関連する道路への流入による安全性の低下が挙げられます。
- 市民アンケートにおける意見をみても、「通行安全性」や「道路や歩道の広さ」など物理的な面で不満があるほか、「自転車走行環境」、「計画道路の歩道整備」、「段差解消」を重視していることが伺えます。
- 課題解決のためには、以下の取組を行うことが重要です。
 - ・ 最適な道路ネットワーク形成
 - ・ 自動車交通量の適切な配分策
 - ・ 生活に関連する道路への進入抑制策
 - ・ 歩行空間、自転車通行空間の整備

4-5 基本方針

- 20年後の将来交通像の実現に向け、第3章で示した交通をとりまく課題を踏まえた上で、目指す交通像・コンセプトや、20年後の市民生活等のイメージに基づき、以下のとおり5つの基本方針を設定しました。



図 交通をとりまく課題と基本方針の対応

基本方針1. 快適な移動を実現する

- 幹線道路の混雑、運輸業における人手不足(公共交通の存続)等の課題に対応するために、都市計画道路や構想路線の整備による混雑解消、及び基幹的な交通である既存のバスのほかに、各地域における新たなモビリティ等による多様な交通環境の実現に取り組みます。
- これにより、道路の混雑がなく、目的地に早く着くことが可能となり、また、多様な交通手段により、マイカーなしでの利便性向上が実現されます。

課題

- 幹線道路の混雑
- 交通インフラに関わる人手不足

目指す交通像・コンセプト

- 都市計画道路や構想路線が整備された混雑のない道路
- 既存のバスのほか、新たなモビリティ等による多様な交通環境

20年後の市民生活

- 道路の混雑がなく、目的地に早く着く
- マイカーなしで駅までの移動、市内の移動ができる



基本方針2. 多様な移動ニーズに応える

- 高齢者世帯等の増加による移動困難者の増加、子育て支援ニーズの高まり、働き方の多様化、障がい者や外国人等に対する移動への配慮などの課題に対応するため、だれもが制限なく移動できる交通環境づくりを目指します。
- これにより、様々な移動手段により選択肢が増え、世代や状況等にとらわれず、あらゆるニーズに合った移動が可能となります。

課題

- 高齢者世帯等の増加
- 働き方の多様化
- 障がい者や外国人等の移動への配慮

目指す交通像・コンセプト

- だれもが制限なく移動できる交通環境

20年後の市民生活

- 様々な移動手段による選択肢が増え、あらゆるニーズに合った移動ができる



基本方針3. 都市を活性化する

- 今後、人口減少による都市の賑わいの低下や、免許返納による移動機会の減少、フレイル^{*12}の増加等の課題に対応するため、各拠点にモビリティ・ハブを整備し、都市拠点の結節機能の強化を図ることにより、市民の移動がさらに促進され、ソフト面においても、市民活動が活性化し、さらには都市の活力や地域コミュニティの活性化に寄与する交通環境づくりを目指します。
- これにより、賑わいや交流のあるまちで暮らせるほか、免許返納により移動手段が狭まってしまった高齢者等の移動機会が増え、生き生きとした生活が実現されます。

課題

- 人口減少による都市の賑わいの低下
- 免許返納や、フレイルの増加による移動機会の減少

目指す交通像・コンセプト

- 都市拠点の結節機能(モビリティ・ハブ)の強化・市民参画型の活動等により、都市の活力や地域コミュニティの活性化に寄与する交通環境

20年後の市民生活

- 賑わいや交流のあるまちで暮らせる
- 高齢者等の移動機会が増え、生き生きとした生活ができる

*12 フレイル

高齢者等の健康な状態と要介護状態の中間の段階を示すもの。日頃から歩く・動くなどの運動を行うことで、フレイル状態に陥ることを防ぐ。



基本方針4. 安全・安心に暮らす

- 幹線道路から生活に関連する道路への通過交通の混入や、大規模な災害リスク等の課題に対応するため、適切に道路が使われ、だれもが安全に移動できる道路の整備や、大地震をはじめとした災害時においても復旧復興が早く、備えのある交通環境づくりを目指します。
- これにより、事故をなくし安心して道路が使える環境が実現されます。さらに災害時においても都市機能が維持されます。

課題

- 生活に関連する道路への通過交通混入
- 大規模災害リスク

目指す交通像・コンセプト

- 適切に使われ、だれもが安全・安心に移動できる道路
- 災害への備えのある交通環境

20年後の市民生活

- 事故がなく、安心して道路が使える
- 災害時にも都市機能が維持される



基本方針5. 環境に負荷をかけない

- ガソリン車等に依存することが地球温暖化の要因の一つとして挙げられる中、公共交通やエコカーの利用を促進し、人々の移動が環境に悪影響を及ぼすことのないような交通環境づくりを目指します。
- これにより、だれにとっても快適で良好な環境の下での暮らしが実現されます。

課題

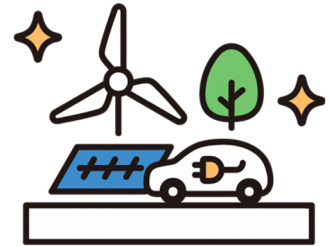
- ・ ガソリン車等に依存することによる地球温暖化の進行

目指す交通像・コンセプト

- ・ 公共交通・エコカーの利用を促進し、人々の移動が環境に悪影響を及ぼすことのないような交通環境

20年後の市民生活

- ・ 快適な環境の下で暮らせる



1 計画の概要

2 交通の現状

3 交通をとりまく
課題

4 将来交通像・
基本方針

5 基本方針別の施策

6 計画の推進

資料編